

地域資源から
新しいアイデアを
生み出す問題集

—— 宮城県仙台市編

IDEA BOOK アイデア ブック



実は仙台は、かつて文化発信を担う大きな都市の一つでした。

仙台藩初代藩主は、皆さんご存知の伊達政宗です。彼は、朝鮮出兵の時、ダテ者として、京都の人々に称賛されました。それは、兵士、あるいは彼自身の姿に京都の人々が魅了されたからでしょう。出兵時の兵士の帽子は煌びやかですし、三日月型の兜や水玉模様陣羽織は現代にも通用するお洒落さを醸しています。また、仙台の伝統工芸品の一つ、堤焼人形は京都の伏見人形と共に土人形の二大源流の一つとされ、各地の人形に影響を与えました。以上、仙台が文化発信都市であった事例ですが、これらを挙げ始めると枚挙にいとまがありません。

しかし、現在の仙台市を見ると、四谷用水など文化的に価値あるものが表舞台に出ないばかりか、それらを蔑ろにしながら、発展しているような側面が見受けられます。まさに、リトル東京と呼ばれるように…。これでは、文化的に豊かで、多文化的な仙台の良さが失われる上に、地域の個性が欠落してしまうように感じます。

この問題集を通して、仙台や宮城、東北を今一度見つめなおす、きっかけになればと思います。そして地域の良いところを見つける機会、あるいはそういった視点の参考になれば幸いです。

作者プロフィール

酒井陽平

福知山公立大学
地域経営学部地域経営学科 1 年生 (2017 年入学)

東北学院高校を卒業し、1 年の予備校生活を経て、2017 年から京都府福知山市の福知山公立大学に通う。学内では、持続可能な開発を目指し、地域経営学を学ぶ。一方で、和服というファッションを、今後とも発展させるにはどうしたら良いのか経営や経済の視点から模索中。ちなみに本人は日々和服を普段着として着続けて、早 4 年程度。もちろん大学でも和服。

発行日：2018 年 3 月 1 日
著者：酒井陽平（福知山公立大学地域経営学部地域経営学科 1 年）
発行：福知山公立大学地域経営学部地域経営学科
塩見直紀研究室（特任准教授 090-6249-6539）
620-0886 京都府福知山市字堀 3370 福知山公立大学内
0773-24-7100 <http://www.fukuchiyama.ac.jp>

※本冊子は福知山公立大学の平成 2 9 年度「先導的教育プログラム推進助成事業」を活用して制作しています。

Q1

■ 仙台では、「伊達者」という言葉が生まれるほど、文化を創造する都市でした。現在の仙台発の文化は？

1

2

3

Q2

■ 仙台の地下を走る「四谷用水」を広く
知ってもらい、まちづくりに活かすには？

1

2

3

Q3

「リトル東京」という名前について
考える機会を持つには？

1

2

3

Q4

「はらこ飯」を国内外の人に
知ってもらうには？

1

2

3

Q5

「冬の氷と寒さ」を楽しいものに変えるには？

1

2

3

Q 6

青葉城下の町なみに見える形で、
まちづくりに活かすには？

1

2

3

Q7

青葉城下の町なみや仙台藩の文化を
より身近に感じてもらうには？

1

2

3

Q 8

「冬の広瀬川の雪景色と峡谷」を
活かしたイベントをするなら？

1

2

3

Q9

「堤焼き人形」が京都の伏見人形とともに土人形の二大源流であると
仙台市民が知るためには？

1

2

3

Q 10

■ 「伊達政宗」のみの観光政策を、
さらに豊かな政策にするには？

1

2

3

Q 11

「伊達なまち」のスローガン(キャッチフレーズ)を国内外の仙台への旅行者が感じられるようにするには？

1

2

3

Q 12

和服を推して、新ファッションを進める
ことで、「伊達なまち」を体現できる
まちにするためには？

1

2

3

Q 13

「広瀬川」を地域の観光に活かすには？

1

2

3

Q14

大きな木々がまちの近くにあることを
感じてもらうには？

1

2

3

Q 15



本町の個性的な店を盛り上げるには？

1

2

3

Q 16

■ 秋のイチョウの落ち葉で黄色に染まる
仙台の景色を活かすには？

1

2

3
